

第3学年1組 国語科 学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学 級：第3学年〇組

場 所：〇〇市立〇〇小学校3年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名 「『三の一ビブリオけんきゅう所』で世界の民話のおもしろさをしょうかいしよう」

（教材名「三年とうげ」 光村図書 三下）

2 単元の目標

○自分が選んだ世界の民話のおもしろさを紹介するという目的をもって読書に親しむとともに、古くから語り伝えられてきた民話には人々の知恵や教訓が込められていることに気付くことができる。

（知識及び技能(3)オ）

◎自分が選んだ民話のおもしろさを紹介するために、物語を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 （思考力、判断力、表現力等 C 読むこと(1)オ）

○世界の民話を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることや友達の感じ方のよさに気付くことができる。 （思考力、判断力、表現力等 C 読むこと(1)カ）

○世界の民話のおもしろさを紹介するために、見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを生かしながら、自分や友達の考えを共有しようとしている。 （学びに向かう力、人間性等）

3 単元について

(1) 児童生徒の実態

本学級は、読書が好きな児童が多く、朝の活動や休み時間に静かに集中して読書をする姿が見られる。そのことを生かし、5月には、「本は友達」の単元で、自分が好きな本を紹介し合う「3の1ビブリオバトル」を行った。図書室へ行って読書に浸る時間をつくり、自分で紹介する本を選び、特におすすめのページに付箋を貼って、どうしてその本が好きなのかについて根拠をもとに自分の意見を話す学習をした。学習後の振り返りでは、「今度は、とびっきりおもしろい本を探して友達に紹介したい」と書いたり、友達の話した内容をよく聞いてそのことについて感想を書いたりしていることから、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりする活動が好きな児童が多いことが伺えた。

10月にも「第2回3の1ビブリオバトル」を実施し、9月の読書月間で毎日行ってきた読書活動を通して見つけたおすすめの本を紹介し合った。そのように好きな本を紹介し合う活動を繰り返しながら、自分が紹介する本の好きなところやおすすめの場面を挙げているものの、物語を読んで理解したことに基づいてそれらの理由を明らかに示すことができていなかったり、本を読んだ感想をまとめたりすることができていなかったりする児童がいることが分かった。

このようなことから、本単元では、物語の内容を捉え、自分が着目した「おもしろさ」について叙述をもとにその理由を説明したり、既習の内容と結び付けて感想をまとめる力を育てていきたい。また、それぞれの考えを友達と共有することを通して、友達の感じ方のよさに気付くとともに、自分自身の考えのよいところも認め注目する姿勢を培っていききたいと考えている。

これまでの既習単元として、物語文では、「きつつきの商売」と「もうすぐ雨に」、「ちいちゃんのかげおくり」を学習してきた。「きつつきの商売」の単元では、叙述を基に場面の様子を思い浮かべ、グループで音読発表会をする言語活動を取り入れた。場所や天気、登場人物がしたことなど、2つの場面の様子や大まかな変化を読み取った。次に、「もうすぐ雨に」の単元では、出来事に気を付けて登場人物の行動や気持ちを読み、好きな場面について話し合う言語活動を行った。不思議な出来事が次々と起きる中で主人公の気持ちが変化する様子を捉えることができた。そして、「ちいちゃん

んのかげおくり」の単元では、心に響いた場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を想像し、ブックトークで6年生に伝える言語活動を行った。複数の場面と結び付けてわけを考える中で場面の移り変わりを捉えるとともに、「空」についての叙述に注目した読みから主人公の思いの変化を読み解く姿が見られた。また、そのような読みを自分が選んだ本でも活用した。活用において個人差が見られたものの、対話的な学びを行う中で、友達の助言から複数の場面を結び付けてわけを再構築した児童もいた。

(2) 教材について

本教材は、民話を読んで理解したことに基づいて、おもしろいと思うところとその理由を友達に紹介する内容である。

本単元『3の1ビブリオけんきゅう所』で世界の民話のおもしろさをしょうかいしよう』では、学習指導要領第3学年及び第4学年の〔知識及び技能〕「(3)我が国の言語文化に関する事項 オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと」及び、〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」「(1) オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」の指導事項を重点的に指導する。

本単元で仕組む言語活動は、特に「C 読むこと」「(2) イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」を具体化し、『3の1ビブリオけんきゅう所』で世界の民話のおもしろさを紹介する』である。そのゴールに向かって、叙述を基に物語の内容を捉え、登場人物の気持ちの変化や情景について想像を膨らませる中で、自分が着目した「おもしろさ」について、理由を明確にして伝えたり、感想をまとめたりする力を引き出したい。また、友達の読みと自分の読みを共有し合うことを通して、友達の感じ方のよさに気付くとともに、自分自身の考えのよいところも認め注目する姿勢を育みたい。

①教科書教材

「三年とうげ」は、朝鮮半島に伝わる民話である。場面の様子や登場人物の行動が分かりやすく表現されているので、叙述をもとに登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像しやすい。また、時や場所の紹介から始まり、ある『出来事』が起き、それが『解決』し、その後どうなったのかという結びで終わるといふ民話や昔話に共通した起承転結がわかりやすい組み立てになっている。

「三年とうげで転ぶ」という『出来事』があり、「トルトリ」の機転の利いた提案で無事に『解決』するという展開は、登場人物の気持ちや場面の様子の変化を生み出し、それらが物語のおもしろさにつながる。この物語の展開は、続いて学習する「たから島のぼうけん」の単元で、組み立てに沿って物語を書く際の基本となるため、本単元でしっかりと押さえたい。

②関連する図書資料

並行読書では、古くから語り伝えられてきた、世界の民話や昔話の本を用意する。担任や司書教諭による読み聞かせをしたり、読書に浸る時間を確保したりする中で、世界には数多くの民話や昔話があることに気付き、関心をもてるような環境を設定する。また、「ビブリオパスポート」を用意し、読んだ民話と国名を記録できるようにする。

一人ひとりの児童が「研究員」となって、世界の民話を読んで理解したことに基づいて、その「おもしろさ」とその理由を紹介し合うという目的意識をもって並行読書に取り組みたい。様々な民話や昔話を読むことで読書の幅を広げるとともに、教科書教材で習得した資質・能力を自分が選んだ本で実践する機会とする。

※関連する図書資料例

『とらとほしがき』 パク ジェヒョン再話 おおたけ きよみ訳 光村教育図書

『パンのかけらとちいさなあくま』 内田莉沙子再話 福音館書店

『とらとおじいさん』 アルビン・トレセルト 光吉夏弥訳 大日本図書

(3) 指導について

①主体的に取り組むための「目的の設定」と「児童と共に考える学習計画」

「何のためにこの学習をするのか」という目的意識をもつことは、児童が主体的に学習に取り組むための原動力となる。7時間という短い配当時数であっても、児童にとって学習の目的を意識できる時間を設定し、「なぜ、読むのか」「なぜ、話し合うのか」といった児童の立場からの目的性と必要性を明確にすることで、児童が主体的に取り組むことができるようにしたい。

これまで児童はおすすめの本を紹介する活動である「ビブリオバトル」を2回経験している。ビブリオバトルでは、「この本が好き」「この場面が好き」といった「好き」という気持ちを原動力に友達に本をお互いに紹介し、一番読みたくなった本を選んで投票する。自分がおすすめする本が「チャンプ本」に選ばれるとうれしい一方、選ばれなかった児童からは、「今度やるときは、絶対に勝ちたい。」といった振り返りがあった。そこで、「お話のおもしろさが伝わるように紹介するにはどうしたらよいか」という児童の疑問を引き出し、『3の1ビブリオけんきゅう所』で本のおもしろさを紹介する」という学習課題を設定する。物語を読んで理解したことに基づいて、どんなところがおもしろいのかやなぜそう思うのかについて考え、学級の友達にそれらを紹介するという目的を共通して認識できるようにする。

次に、目的を達成するためにどのような学習過程が必要であるかについて児童と一緒に考えて学習計画を定め、学習の見通しをもつことができるようにする。6月に学習した『説明名人』のひみつをさぐり、昔遊びプレゼンターになろう（「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」光村図書）や「ブックトークで『じんとくる場面』をしょうかいしよう」（「ちいちゃんのかげおくり」光村図書）の単元で、児童は自分たちで学習計画を立てている。その時の経験を生かし、目的を達成するために本単元で何をしなければならないかを意識し、自分事としてより主体的に学習に取り組む態度につなげていきたい。

②児童の「ここが好き」「ここがおもしろい」に着目した「読み解き」

本単元の目標の一つに、古くから語り伝えられてきた民話には人々の知恵や教訓が込められていることに気付くことがある。登場人物とともに自分が体験したことのない環境に身を置き、予期せぬ状況に陥っても機転を利かせてたくましく生き抜いていく様子を想像したり、いつの時代にも共通する人間の喜びや悲しみなどの思いに共感したりするときに、本当の読書の楽しさや魅力を実感することができる。しかし、これまでの国語科の学習では、物語を場面ごとに区切って読み、指導者が提示する課題について考えて読み取る形態が多かった。決められた時数内で効率的に指導するという点ではそのよさもあるが、読書の楽しさや魅力を感じられるかという疑問が残る。

そこで、民話を読んで理解したことに基づいて、学習の主体者である児童が着目した「ここがおもしろい」を起点として学習を進めていく。「どんなところがおもしろいのか」とその理由について、叙述を根拠に想像を膨らませて考える。「ちいちゃんのかげおくり」での既習事項として、「～だったけど、～になった。」といった変化のあるところが心に残ることを想起し、ある『出来事』がきっかけで登場人物の気持ちや場面の変化が生まれ、それを『解決する』過程でおもしろさを感じることが多いことを突き止め、自分たちの学びの実感として積み重ねていけるようにする。

③「教科書を学ぶ」のではなく、「教科書で学ぶ」ための単元構成と言語活動

本単元で特に育成したい資質・能力は、自分が選んだ民話のおもしろさを紹介するために、物語を読んで理解したことに基づいてその理由を説明したり、感想をまとめる力である。第1次は、課題を立てて見通しをもち、第2次は、教科書教材で学習したことを、並行読書で選んだ本に活用する単元構成とする。前半に、「三年とうげ」で「どんなところがおもしろいのか」を出し合い、その理由について、登場人物の気持ちや場面の様子の変化を引き起こす『出来事』や『解決する』過程に注目して考える読み方について学び、後半で世界の民話や昔話に関連する図書資料を読む際にそれを活かし、自分が選んだ本で実践する流れにする。

(4) 「読み解く力」に関わる目指す児童の姿とその育成のための手立て

<p>【「読み解く力」の二つの側面】</p> <p>A … 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B … 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>【「読み解く力」の三つのプロセス】</p> <p>① 発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す</p> <p>② 分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する</p> <p>③ 理解・再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
--	---

本単元で設定した言語活動は、世界の民話や昔話を読み、『3の1ビブリオけんきゅう所』で世界の民話のおもしろさを紹介することである。第1次の導入では、目的意識をもたせ、目的（ゴール）の実現に向けた学習計画を立てる。第2次の前半に教科書教材を使って「三年とうげ」のおもしろさとその理由を紹介するために必要な力を付け、後半では、それを生かして自分が選んだ関連する図書資料で活用する。第3次では、自分が選んだ図書資料のおもしろさとその理由を紹介し合い、学習を振り返る。

このような単元構成から、第2次前半と後半において、それぞれ下記のような児童の姿を目指したい。

第2次前半では、「必要な情報を確かに取り出す力」と「情報を比較し、関連付けて整理する力」に関わって、教科書教材で「おもしろいと思うところ」とその理由を叙述をもとに発見し（A①）、既習の内容と結び付けて想像しながら、読み解けるようにする（A②）。そのために、これまで「読むこと」の指導事項で学習してきた内容を振り返り、叙述に基づいた深い読みやより説得力のある理由や根拠をもとに「三年とうげ」のおもしろさを伝えられるようにする。

次に、教科書教材で「おもしろいと思うところ」をもとに読み解いたことを中心に友達と話し合う中で、友達の考えと自分の考えを比較したり、関連付けたりすることで、「おもしろいと思うところ」とその理由について、登場人物の気持ちや場面の様子の変化を引き起こす『出来事』や『解決する』過程に注目して考える読み方について学ぶ姿を目指したい（B②）。

前半の最後に、「自分なりに解決し、知識を再構築する力」に関わって、教科書教材についての友達の意見を聞いて、自分の考えを再度吟味し、聞き手により伝わる内容にするにはどうすればよいか再検討する姿につなげ、よりよい考えを形成できるようにしたい（B③）。そのために、再構築する時間を確保し、再構築したものをワークシートに書き込むことで、自分の考えをもう一度まとめてよりよいものにしようとする姿勢につなげる（A③）。

第2次後半は、まず、教科書教材で学んだことを活かして、並行読書をしてきた図書資料から「おもしろいと思うところ」やその理由となる部分を取り出し（A①）、既習の内容と結び付けて想像しながら、「おもしろいと思うところ」とその理由を考える姿を目指したい（A②）。

「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の「情報を比較し、関連付けて整理する力」に関わって、第2次後半では、自分が選んだ本の中で「おもしろいと思うところ」とその理由について友達の考えを捉え（B①）、その意図を理解し（B②）、自分の考えに活かそうとする姿を目指したい（B③）。そのために、対話のグループは、原則として、同じ本を選んだメンバーにしたり、紹介する本を読んだことのあるメンバーで構成し、「自分たちが発見したこのおもしろさを紹介したい」というチーム意識をもたせて、対話の活性化を図りたい。自分の考えがまだはっきりと決まっていない「迷い」がある状態でもよしとし、「チームで話し合う」ことを通して自分の考えを明確にしたり、広げ深めたりすることを目的として話し合いを促す。交流後、話し合ったことをもとに再考し、自分の意見を再構築する機会をもつ（A③）。

第3次では、『3の1ビブリオけんきゅう所』のみんなに自分が選んだ本の「おもしろいと思うところ」とその理由を紹介する。その後、自分の紹介を振り返り、この経験を次の学習へ生かそうとする姿を目指したい。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・「三年とうげ」や関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、読書の幅を広げ、新たな知識を得たり、読書の魅力に気付いたりしている。 (3)オ)</p>	<p>・「三年とうげ」や関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C 読むことオ)</p> <p>・友達の読みと自分の読みを共有し合うことを通して、自分や友達の感じ方のよさに気付いている。 (C 読むことカ)</p>	<p>・目的を達成するために見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを活かしながら、民話の紹介をしたり、自分や友達の考えを共有しようとしている。</p>

5 単元の指導と評価の計画（全7時間、本時6／7）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	0	<p>【下地をつくる】</p> <p>○世界の民話や昔話を読む。</p> <p>○世界の民話の読み聞かせや司書教諭によるブックトークを聞く。</p>	<p>・第1時の約2週間前から、世界の民話や昔話を集めた「世界の民話コーナー」を設置する。</p> <p>・各国の民話を紹介した世界地図を掲示し、民話に興味をもてるようにする。また、『ビブリオ・パスポート』を用意して読書記録が残せるようにし、積極的な並行読書につなげる。</p> <p>・読み聞かせや司書教諭によるブックトークを通じて、読書に関心が向かない児童が関心をもつきっかけをつくる。</p>	
	1	<p>【課題を立てる】</p> <p>○「第2回3の1ビブリオバトル」の振り返りから、課題意識をもつ。</p> <p>○『3の1ビブリオけんきゅう所』で世界の民話のおもしろさを紹介する」という、単元のゴールイメージをもつ。</p>	<p>・どうすれば本の「おもしろさ」が伝わるのかという課題意識をもてるようにする。</p> <p>・『研究員』になって、自分が選んだ民話のおもしろいと思うところとその理由を紹介することを研究する目的を共通認識する。</p>	<p>□関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、読書の魅力に気付いている。 (知技(3)オ)</p>
二	2	<p>【見通しをもつ・自分で考える】</p> <p>○単元のゴールにたどり着くまでの学習計画を立てる。</p> <p>○「三年とうげ」を音読して、登場人物とあらすじを捉える。</p>	<p>・「誰が」「どうして」「どうなった」のかを押さえる。</p>	<p>□目的を達成するためにどのような課題があり、そのためにどのような学習が必要かを考え、計画を立てようとしている。 (主)</p>

	3	<p>【自分で考える】</p> <p>○「三年とうげ」の「おもしろいと思うところ」とその理由を考える。</p>	<p>・理由を考えられていなかったり、迷いがある状態であったりしてもよしとし、次時の話し合いにつなげる。</p>	<p>□<u>関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもととしている。</u>（思判表 C オ）</p>
	4	<p>【共に学ぶ・自分で考える】</p> <p>○「三年とうげ」のおもしろさを相手により伝わるように紹介するためにはどうすればよいかをグループで話し合う。</p> <p>○グループの話し合いで解決しなかったことについて、全体で共有し、解決を図る。</p> <p>○話し合ったことをもとに、理由を再構築する。</p>	<p>・<u>次時に先立って民話を選んでおき、できるだけ同じ民話を選んだ児童で編成されたグループで、それぞれが選んだ「おもしろいと思うところ」とその理由について話し合う。</u></p>	<p>□<u>関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもととしている。</u>（思判表 C オ）</p>
	5	<p>【自分で考える】</p> <p>○自分が選んだ民話の登場人物とあらすじを捉える。</p> <p>○自分が選んだ民話の「おもしろいと思うところ」とその理由を考える。</p>	<p>・教科書教材で学習したことを基に、自分が選んだ民話に活用する。</p> <p>・理由を考えられていなかったり、迷いがある状態であったりしてもよしとし、次時の話し合いにつなげる。</p>	<p>□<u>関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもととしている。</u>（思判表 C オ）</p>
	6 (本時)	<p>【共に学ぶ・自分で考える】</p> <p>○自分が選んだ民話のおもしろさを相手により伝わるように紹介するためにはどうすればよいかをグループで話し合う。</p> <p>○話し合ったことをもとに、理由を再構築する。</p>	<p>・<u>できるだけ同じ民話を選んだ児童で編成されたグループで、「おもしろいと思うところ」とその理由について話し合う。</u></p>	<p>□<u>関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもととしている。</u>（思判表 C オ）</p>
三	7	<p>○「三のびブリオけんきゅう所」のみんなに、自分が選んだ民話のおもしろいと思うところとその理由をチームで紹介する。</p> <p>○学習を振り返り、課題や次に生かしたいことを考える。</p>	<p>・これまでの学習を通して、上手くいったことや課題となったことを振り返り、次はどうすればよいかを考える。</p>	<p>□目的を達成するために、物語から読み取ったことや自分の考えを発信している。（主）</p> <p>□<u>友達の読みと自分の読みを共有し合うことを通して、自分や友達の感じ方のよさに気付いている。</u>（思判表 C カ）</p>

6 本時の目標（本時：6／7時間目）

関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、その理由をまとめることができる。

7 本時の評価規準

自分が選んだ民話の「おもしろさ」を相手により伝わるように説明するために、既習の内容と結び付けてその理由を考えている。（C 読むことオ）

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
13:45	1. 見通しをもち、課題を再確認する （3分） ・次時に自分が選んだ民話のおもしろいと思うところとその理由をチームで紹介することを確認して、学習の流れを見通す。	・学習の目的と、単元の初めに児童と考えた学習計画を提示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・「おもしろいと思うところ」を紹介するための「理由」がはっきり考えられていなかったり、迷いがあったりすることを前時の振り返りから引き出し、学び合いへの目的意識を高める。
13:48	2. めあてをもつ （2分） しょうかいする民話のいちばんおもしろいところはどこだろう。また、その理由は何だろう。	
13:50	3. 全体で共に学び合う （10分） ・まず全体で、登場人物の気持ちや場面の様子の変化につながる『出来事』やそれを解決する過程に注目して理由を考えるイメージを共有する。	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分が選んだ民話の「おもしろさ」を紹介するための「理由」をどのようにまとめればよいか考えるようにする。
14:00	4. グループで共に学び合う （20分） ・自分が選んだ民話のおもしろさを友達に分かってもらえるような理由となっているかについて、チームで話し合う。	・ <u>同じ民話を選んだ児童同士でグループを編成することでチームを作り、民話を紹介し合う活動に向けてチームの連帯感と対話への意欲を高める。</u> ・ <u>対話を途中で一旦止めて、対話がうまく成立しているチームがどのように話し合いを進めているかを共有し、対話の活性化につなげる。</u>
14:20	5. 自分で考える （7分） ・自分が考えた「理由」を再考し、感想をまとめる。	・ <u>共有した後、自分のワークシートに戻って、自分の考えの再構築を図る時間を確保する。</u>
14:27	6. 学習を振り返る （3分） ・めあてに立ち返って、本時で考えたことや解決できたことを自分の言葉でまとめる。 ・次時の見通しをもつ。	□関連する図書資料のおもしろさを紹介するために、民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもとうとしている。（C 読むことオ） ・めあてを再確認し、めあてに対する答えとなるような振り返りになるようにする。

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

9 授業参観の視点

- ① 自分が選んだ民話の「おもしろさ」を友達に分かってもらえるように、叙述に基づいて登場人物の気持ちや場面の様子の変化を具体的に想像し、その理由を考えることができていたか。また、そのための手立てや支援は有効であったか。
- ② 「共に学び合う」の場面で、各自が相手の考えや意図を理解し、自分の考えの再構築に役立てる話合いになっていたか。